

Mémoires 2018

チャンピオンズカップ

第19回チャンピオンズカップ(GI)優勝馬 ルヴァンスレーヴ



若き王者あらわる

3歳馬の優勝は2006年、東京競馬場で行われていたジャパンカップダート時代のアロンダイトが最後。古馬の壁が厚く立ちはだかってきた秋のダート王決定戦だが、この年は3歳馬のルヴァンスレーヴが単勝1.9倍という圧倒的な1番人気に推された。

ルヴァンスレーヴはここまで7戦してJpnI・3勝を含む6勝。前走、古馬との初対戦となったマイルチャンピオンシップ南部杯でも、前年の最優秀ダートホースであるゴールドドリームに完勝を取っていた。

そのゴールドドリームは直前に回避して不在となったが、京都競馬場で行われたJpnIのJBCクラシックからはケイティブレイブ、オメガパフューム、サンライズソアの上位3頭が揃って出走。他にも春にフェブラリーステークスを制したノンコノユメ、このレースと同じ距離の米G1を勝っている遠征馬パヴェルなど、ハイレベルなメンバーが集まった。

ゲートが開くと、注目のルヴァンスレーヴは好スタートを切り、先手を奪ったJBCレディスクラシック優勝馬アンジュデジールの直後につける。そのまま楽な手応えで、2、3番手の内を進んだルヴァンスレーヴは、直線で仕掛かけられるとあっという間に先頭に立ち、あとは後続を突き放すのみ。最後に内からウェスターランドが鋭く追い込んできたが、そのはるか2馬身半前で余裕のゴールを飾ってみせた。

勝ちタイムはレースレコードタイの1分50秒1。ミルコ・デムーロ騎手は、1週前のジャパンカップでやはりレコード勝ちを収めた3歳牝馬とその鞍上の名前を出し、「クリストフ(ルメール騎手)が、ルヴァンスレーヴはダートのアーモンドアイだと言ってくれたけど、その通りだと思います」と嬉しそうに話した。

これまでスタートで後手に回ることが多かったルヴァンスレーヴだが、このレースでスタートが決まったことについて、管理する萩原清調教師は「トモ(後肢)に力がついて左右のバランスが良くなったから」と冷静に愛馬の成長を分析。「まだまだ心身ともにレベルアップできるポイントはあります」というダート界のニューヒーローは、この年、12年ぶりに3歳馬として最優秀ダートホースのタイトルを獲得する。

▶歴戦の古馬を抑え、実力を示したルヴァンスレーヴ。



第19回チャンピオンズカップ(GI)

12/2 中京競馬場 1800m(ダート・左) 晴・良 15頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	ルヴァンスレーヴ	牡3	56	M. デムーロ	萩原 清	1:50.1	①	②②③③
2	ウェスターランド	騾6	57	藤岡 佑介	佐々木晶三	2 1/2	⑧	⑮⑮⑮⑮⑮
3	サンライズソア	牡4	57	J. モレイラ	河内 洋	クビ	③	⑤⑤⑤⑤⑤
4	アンジュデジール	牝4	55	横山 典弘	昆 貴	1 1/4	⑨	⑪⑪⑪⑪⑪
5	オメガパフューム	牡3	56	C. デムーロ	安田 翔伍	2 1/2	④	⑧⑧⑪⑪⑪
6	サンライズノヴァ	牡4	57	戸崎 圭太	音無 秀孝	クビ	⑤	⑬⑬⑬⑬⑬
7	ノンコノユメ	騾6	57	内田 博幸	加藤 征弘	アタマ	⑥	⑭⑭⑭⑭⑭
8	ミツバ	牡6	57	松山 弘平	加用 正	クビ	⑫	⑦⑦⑧⑦⑦
9	ヒラボクラターシュ	牡3	56	四位 洋文	大久保龍志	1/2	⑩	②③②②②
10	アスカノロマン	牡7	57	太宰 啓介	川村 禎彦	1 1/2	⑮	⑧⑧⑥⑥⑥
11	ケイティブレイブ	牡5	57	福永 祐一	杉山 晴紀	アタマ	②	⑧⑧⑧⑦⑦
12	センチュリオン	牡6	57	吉田 隼人	田村 康仁	3/4	⑭	⑪⑪⑩⑩⑦
13	インカンテーション	牡8	57	三浦 皇成	羽月 友彦	1/2	⑩	④③③③③
14	アポロケンタッキー	牡6	57	小牧 太	山内 研二	ハナ	⑬	⑫⑫⑪⑫⑫
15	パヴェル	牡4	57	M. グティエレス	L. モラ	クビ	⑦	⑤⑤⑤⑥⑦

単勝 ②190円 複勝 ②110円 ③440円 ④200円 枠連(2-7)2,250円
馬連 ②-⑩3,000円 馬単 ②-⑩3,890円 ワイド ②-⑩930円 ②-⑩320円 ⑨-⑫2,140円
3連複 ②-⑩-⑫6,090円 3連単 ②-⑩-⑫27,310円

ハロンタイム 12.8-11.2-13.1-12.5-12.3-12.3-12.3-11.7-11.9
通過タイム 600m ③37.1-800m ④49.6-1000m ⑤1:01.9-1200m ⑥1:14.2-1400m ⑦1:26.5-1600m ⑧1:38.2

優勝馬 ルヴァンスレーヴ

2015.1.26生 父シンボリクリスエス 母マエストラーレ 母の父オオユウガース
白老・(有)社台コーポレーション白老ファーム生産 馬主:(株)G1レーシング



▲スタートダッシュを決めたルヴァンスレーヴ(帽色・黒・右)はインコースで折り合う。